

## だがしや楽校@山形市避難者交流支援センター

日時：2011年12月18日（日曜日）10:30～14:30

場所：山形市避難者交流支援センター

山形市総合スポーツセンター内（山形市落合町1番地）

2011年12月18日（日曜日）山形市の天気：曇り時々晴れ 場所によって一時小雪

### 【だがしや楽校@山形市避難者交流支援センター】

先月（11月）の13日に続いて、第2回目の“だがしや楽校@山形市避難者交流支援センター”が開かれました。

福島県など県外から山形へ避難されている人たち、特にお子さんとその家族を支援することを目的に開くことになった“だがしや楽校@山形市避難者交流支援センター”の詳しい経緯については、11月13日付けの“だがしや楽校ひとりごとダイアリー”を参照していただくとして、今回は、この日の“だがしや楽校@山形市避難者交流支援センター”の様子をご紹介します。

雪が積もり、この日の朝も雪が降り続く米沢からようやく抜け出し、山形市内に入りますと、ほとんど雪がありません。「これだったら、福島の人にも影響はなく、多くの人が集ってくださるのではないか」と思いながら、会場の山形市総合スポーツセンター内の山形市避難者交流支援センターに着きます。

時刻は午前10時30分を過ぎたばかりですが、すでに大勢の人でにぎわっていました。

即、東北芸術工科大学・大学院で“楽描きだがしや楽校”のメンバーでもあるYoshiさんから「きょうは大勢のスタッフが集まっています」という報告がありました。



当初はスタッフが集まるのか心配する情報もあったのですが、多くの“だがしや楽校”仲間が集っていたのです。この日、スタッフとして参加されたのは、YoshiさんやKatsukoさんら“楽描きだがしや楽校”のメンバー、天童市のAshinoさん、片桐教授やIshiさんら東北芸術工科大学の皆さん、同じく東北芸術工科大学・大学院のYukiさん、山形市市民活動支援センターのTatsu

さん、東北文教大学の学生さん、上山明新館高校の生徒さんらです。さらに今回は、福島の方もおみせを出されました。

というわけで、おみせの数も増えたことから、隣の会議室もお借りしての“だがしや楽校”となりました。



↑山形市避難者交流支援センター



↑会議室

それでは、おみせをご紹介します。

#### ▼松ぼっくりツリー



“楽描きだがしや楽校”のメンバーによるおみせです。まもなくクリスマスです。

#### ▼東北芸術工科大学のおみせ



発行スチロールを使っていろんな形のものを作ります。

#### ▼パステル画



天童市の Ashino さんによるおみせです。クリスマスらしい作品をつくりました。

#### ▼消しゴムスタンプ



Yuki さんの消しゴムスタンプのおみせ。今回はカレンダーをつくりました。

### ▼折り紙



天童市の Ashino さんによるおみせです。  
クリスマスツリーを折りました。

### ▼スライム



“楽描きだがしや楽校”のメンバーによる子ども  
たちに大人気のスライムのおみせです。

### ▼クッキーにお絵描き

こちらが福島の方が出されたおみせで  
す。クッキーにチョコレートソースなど  
でお絵描きします。

大人気となりました。



福島からの Kowat さんは、松ぼっくりツリーのスタッフとして、終始子どもたちを見守ってお  
られました。東北文教大学の学生さん、上山明新館高校の生徒さんらも、それぞれのおみせで、  
スタッフとして活躍されました。

この日の“だがしや楽校”を振り返って、何より、スタッフとしての参加者が大勢集まったこ  
とを取り上げなければなりません。総勢 20 名を遥かに超える人が集いました。

この背景には、“だがしや楽校”への共感に加えて、『避難者支援』というテーマがあったから  
だとは思いますが、人のつながり・支援の輪の力強さをヒシヒシと感じる“だがしや楽校”にな  
りました。それだけでも感動しました。

それから嬉しかったのは、“だがしや楽校”に来られた人たちが、本当に楽しそうに遊んでいた  
ことです。

よく言われることですが、“だがしや楽校”では、福島の人と遊ぶ時には、気を遣うことはせず  
普通に接することが大切です。しかし、それは、現実には、なかなか難しいことです。

でも、この日“だがしや楽校”に来られた人たちの楽しそうに遊んでいる様子を拝見しますと  
余計な気遣いは要らないことがわかります。

この日は、前回よりもさらに多い人たちが、“だがしや楽校”で遊んでいきました。本当に良か  
ったと思います。

ここに、『避難者支援』というテーマを持った“だがしや楽校”の良さを感じました。一方で、テーマを持つことで、課題も持つことになった“だがしや楽校”でもあります。

おみせ出す（“だがしや楽校”を開く側）が無理なく続けることができ、福島の人たちとのつながりが深まり、“だがしや楽校”の輪が広がり、福島の人たちが、おみせを出す側での参加が増えることで、“だがしや楽校@山形市避難者交流支援センター”は継続していくことでしょう。

あるお子さんとおかあさんが“だがしや楽校”のおみせで遊んでいます。そのおかあさんには乳母車に乗った赤ちゃんがいます。赤ちゃん、ベソをかき始めました。

私（山口）は「ベロベロバー」をします。周りから「やめなさい。ますます泣いてしまうよ」という声が飛びます。それでも、私は懲りもせず「ベロベロバー」を続けます。赤ちゃん、しばらくして、泣き顔から普通の顔になります。やがて、私の顔を見ながら、笑顔になります。

周りから「山口さん、やるじゃん」という声が飛びました。やったね！

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター